

# 審 議 会 等 の 会 議 結 果 報 告 書

課所名	水道局営業課
-----	--------

会 議 名	平成 30 年度 第 2 回 諏訪市公営企業運営審議会
開催日時	平成 30 年 9 月 21 日(金) 午後 1 時 30 分より
出席者	<p>&lt;委員&gt;  藤森貫治(会長)、渋江利明(副会長)、有賀秀子、武田なつ子、松木義文、守屋照代、吉江徳男</p> <p>&lt;諏訪市&gt;  河西活水(水道局長)、藤森孝昭(営業課長)、有賀孝治(施設課長)、植松朋生(営業課庶務係長)、守屋行彦(営業課料金係長)、新村憲悟(施設課上水道係長)、後藤準市(施設課温泉係長)、矢崎泰宏(施設課下水道係長)</p> <p>※傍聴者なし</p>
資 料	

## 協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

### 1 開会

### 2 報告

#### (1)平成29年度 諏訪市公営企業会計決算について

- ①水道事業会計
- ②温泉事業会計
- ③下水道事業会計

(事務局より説明、報告)

委員:水道・下水道は必需品だが、温泉は違う。温泉は契約件数が減っている中、10～20年を予測した場合、個人住宅への引湯はカットできるのではないか。地区の温泉も長期的にみると配管の耐用年数が短く、厳しい。温泉についても15～20年の長期ビジョンを早く示してほしい。

事務局:昭和62年3月までの間に当時の理事者が温泉の乱掘対策として源湯所有者の皆様のご理解をいただき温泉統合した経過があり、その際、市が契約に基づいて給湯する約束をしている。現状は厳しいがこうした経緯がある。地区の共同浴場も当時の要望で配湯したが、近年利用者は減っている。別府市等、他の温泉地も同じ状況。当時の契約を履行する責務が行政にはある。企業視点からのご意見として伺う。

委員:契約期間は?

事務局:エンドレス。当時、反対が多い中で、ご理解をいただいたと聞いている。

委員:温泉管を無理して引いている場所がある気がする。エンドレスで赤字になればどうするのか。

事務局：給湯管の末端がやめてくればその先はいらなくなるが、こちらからやめてとはいにくい。現状は留保額が相当ある。元々お客様からお預かりしたお金であり、この事業に使うべきもの。

委員：温泉が市のPRになるのはわかる。温泉の利用について実態調査をやってはどうか。

委員：料金を上げてよいので、温泉を続けてほしい。

委員：人口が減少する中で、あるところで市民に諮って、他会計に回すなり形を変えるなりすることが重要ではないか。

事務局：水道、温泉、下水道の3会計はそれぞれ独立している。温泉の余剰金を他に回すことはできない。温泉でためたお金は温泉のために使っていく。いよいよ立ちいかなくなれば市民に諮ることもあるかもしれない。

委員：新井に温泉を引いているが、新井からの給水も無期限か？

事務局：3年更新だが、信頼関係の中でやっている。

委員：温泉のくみ上げ量に余裕はあるのか？

事務局：元々、源湯は逡減する宿命だが、無理して引くと枯渇を招く性格があると聞いている。当市は無理なく上げている。

委員：水道、下水道は市から補助金をもらっているのか？

事務局：下水道はもらっているが、水道は料金で賄っている。

委員：下水道料金は6市町村同じ条件か？

事務局：市町村により異なる。

委員：諏訪は軟弱地盤で、修理代がかかるのでは？

事務局：おっしゃるとおり、単価は高い。

委員：岡谷は地盤が固い。

委員：下水道は市から補助金をもらっているとのことだが、将来、下水道で自立してやっていくのか、市からの補助金をあてにするのか？

事務局：下水道は、企業債の未償還元金が129億円ある。以前より減ってきたがまだ大きい。当面、市からの繰り入れが必要だが、いつかは単独でやっていくと考えるべき。

委員：一般会計からの繰り入れは減っているのか？

事務局：なだらかに減ってきている。

委員：6市町村で下水道の料金は極端に違うか？

事務局：あまり変わらない。立科町を含めた7市町村に県から、使用量に応じた維持管理費の請求がくる。昨日、県の生活排水課がきた。処理単価は、施設の更新需要が高まっているが、県内の他の流域に比べると安い。また、県がやってくれる分は自前で持たなくてよい。他流域の単価が何故高いかは聞いてないが、当流域は量が多い。

委員：コンパクトにまとまっているとはいえる。

委員：温泉を使っていると下水道使用料が高くなるが、実績ではなく認定量とし、使用量がある程度、押さえられていると聞き、納得した。

委員：地区の共同浴場もまともに払えばえらいこと。

事務局：以前、諏訪市温泉事業運営検討委員会を開催していたが、共同浴場は厳しいという話はあった。今回、水道料金について、共同浴場用は改定を見送った。

委員：温泉が下水道に入るようになり、金属成分の諏訪湖への流入が減り、水質がよくなり、ヘドロも減った。沈殿も避けられた。

委員：日本全国、自然災害が頻発している。特に水道は地震がくればずたずたになる。給水ができるような体制の見直し、検討状況を伺いたい。

事務局：日本水道協会に加盟しており、近隣からの給水支援、広域からの職員派遣、復旧のための技術者の派遣等を調整する。当市が被災すると長野県水道協議会の事務局である長野市が他市・広域に応援依頼をすることになる。これに備えた訓練もある。

### 3 日程

#### (1) 次回審議会開催について

事務局：消費税改正の関係もあり、年度内に開催の見込み

### 4 その他

### 5 現地視察(温泉施設)

柳並配湯センター → あやめ源湯・あやめ配湯センター → 七ツ釜源湯(間欠泉センター)

### 6 閉会